

オレンジベスト 安心の目印！ ～阿蘇っ子の登下校の安全・安心を担う「阿蘇っ子見守り隊」の取組～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
阿蘇市立 阿蘇小学校	阿蘇小学校学校運営協議会 平成31年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 1名 1名	阿蘇市地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校は、阿蘇市の観光的中心地であり、阿蘇登山道路やJR豊肥本線、国道57号線の交錯する交通の要地である。熊本地震以降は、北側復旧道路の開通により、交通量が通勤・通学等で増えていることに加え、観光のための県外車輛の数も徐々に増えてきている。また、学校近くに阿蘇医療センターがあり、同センターへの道路が開通したことで、車量が増えたため、児童の登下校の安全には十分気をつけなければならない状況である。本校では、令和2年、児童と車の接触事故が発生。従来の保護者による見守りからの幅を広げる活動が急務である。

目標や目指す姿(学校)

阿蘇っ子見守り隊(以下:「見守り隊」と連携し、登下校の安全を図り、学校・家庭・地域一体となって事故防止に努める。

目標や目指す姿(地域)

人がつながり 創り出す 新しい阿蘇



阿蘇小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- 地域学校協働活動推進員
- 保護者・PTA関係者
- 放課後子供教室関係者
- 老人会関係者
- 統合前旧三小学校区区長代表 など、計 12名で構成
- 学校応援団関係者 年間平均 6回程度開催

効果的な運営の工夫

学校運営協議会実施前には、各委員に協議すべき議題がないか、事前調査を行っている。また、事前調査および、学校運営上で課題となっていることについて、校長の意見も持ち寄り、会長、副会長および校長による企画会議を開き、議題の選定と学校運営協議会の流れ等の確認を行っている。

本校では、「子どもが問いを発し、問いに立ち向かい、達成感を味わい、新たな問いを探究する意欲・動機となる(動く)」という阿蘇っ子考動サイクルに基づき、児童会の委員会活動の活性化を通じて、児童自らが学校の課題解決に取り組んでいる。児童の委員会活動の取組と学校運営協議会の双方向での課題解決に向けた取組を強化し、学校教育目標の具現化を図る。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

児童の登下校時の安全確保という課題解決を図るために、令和3年度の学校運営協議会で熟議を重ねる。見守り隊の結成に向けて、校区の区長会や老人会に結成の趣旨等の説明会を実施し、各地区の方から賛同を得る。見守りを行う際に目印となるためのオレンジ色のベストを、PTAの協力を得て購入し、令和3年12月22日に発足会と児童との顔合わせ会を実施した。



【見守り隊発足式の様子】

地域学校協働活動

令和4年8月末現在で、校区の老人会や民生児童委員ら173人が見守り隊に登録。目印となるオレンジ色のベストを身につけた隊員が校区内全11地区で登下校の見守り活動を行っている。また、地域貢献活動や夏休みのラジオ体操、校地内の花壇づくり等、年間を通じて老人会の方々と児童との交流活動を行い、地域との絆が深まっている。



【見守り活動の様子】

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

令和4年度の学校運営協議会では、「地域とともにある学校づくり」の「持続可能な体制づくり」に向けて、全委員を3部会に分けて協議を進めている。「阿蘇っ子見守り隊部会」では、PDCAサイクルに則った見守り活動と地域との連携・協働の推進に力を入れている。また、学校運営協議会のメンバーである会長、副会長及び校長が各地区の老人会の会合に参加し、年間を通じた児童との交流活動実施を依頼。見守り隊の方と児童の地域学校協働活動(見守り隊との顔合わせ会、地域ふれあい七夕飾りづくり、除草作業、花壇の苗植え等)を並行して行っている。

取組

成果・効果

見守り隊活動に参加されてみて、どうですか？				
	とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
R4.4.12	31%	67%	2%	0%

令和3年12月22日の見守り隊発足以降、本校児童の登下校中における交通事故等は発生していない。また、登校しぶりの児童等に見守り隊の方が優しく声掛けや付き添いを行うなど、不登校の未然防止にもつながっている。

子どもたちの見守り隊の方へのあいさつはどうか？				
	とてもよい	だいぶよくなった	少しよくなった	よくない
R4.4.12	41%	51%	8%	0%

【見守り活動に参加しての見守り隊の方の感想】

通学時に見守り隊が沿道に出ることで、地域が活性化し、沿道の近隣地区住民とのふれあいもできた。また、今回の見守り活動は、生活への張り合いにもなるし、地域にも貢献できる。今後もこの活動を行うことで、児童の安全が保たれることを願う。